教えて先生!! ベテランに聞く新聞活用法 (下)

タブレット端末や電子黒板を備える学校が近年、増えています。新聞を教材に学ぶＮＩＥで活用しようと思っても、「難しそう」と尻込みする先生は多いかもしれません。若手がベテランに聞く連載最終回の回答者は、ＮＩＥと情報通信技術（ＩＣＴ）を組み合わせて授業をしている奈良女子大付属中等教育学校の二田貴広先生(44)です。（世古紘子）

気になった記事撮り 電子黒板で共有 気軽に始めましょう

奈良女子大付属中等教育学校教諭
二田貴広さん(44)

ふただ・たかひろ　秋田県出身。国語教諭。同県の公立高校を経て2004年から中高一貫校の奈良女子大付属中等教育学校（奈良市）勤務。さまざまな視点で考え、自分の意見を持つ生徒を育てたいと09年から本格的にＮＩＥを開始。奈良県ＮＩＥアドバイザー、日本ＮＩＥ学会常任理事。

タブレット端末 具体的な活用法は

岐阜市：岐阜西中教諭 脇原直人さん(26)

実践校になった二〇一六年度にＮＩＥを始めたばかり。学校にタブレット端末がありますが、準備が大変そうで印象です。スマートフォンを使える先生なら大丈夫。生徒も操作には慣れています。気軽に始めてみましょう。

脇原先生の学校はインターネットにつながる環境でしょうか。タブレット端末はあっても接続ができない学校があります。ない場合も今の季節ならタブレット端末で校内の桜を撮影して生徒に見せ、関連付けて新聞に載っている桜の記事を紹介できます。生徒が学校にある新聞から気になった記事を撮り、ホームルームなどで電子黒板につないで見せることもできますね。紙に印刷する手間が省ける上、拡大して分かりやすく説明できます。

ネット環境が整備されていたら、教育向けの無料会員制交流サイト（ＳＮＳ）「ｅｄｎｉｔｙ」がお薦めです。教員がスレッドを作って指定すれば、生徒が授業に関する意見を投稿したり、全国紙のデジタル新聞で検索した記事を上げたりできます。授業時間内に発言を拾える生徒は数人です。ＳＮＳなら、みんなで考えや記事を共有できる利点があります。

1人1台ずつタブレット端末を持ち、デジタル新聞の記事検索などをする生徒たち＝奈良市の奈良女子大付属中等教育学校で

紙もデジタルも それぞれの良さ

自身の実践としてはほかに、生徒が岡山や京都の高校生とＳＮＳで意見を交わして新聞を作ったり、インターネット電話「スカイプ」で海外特派員にインタビューしたりもしました。ただ、すべてのＮＩＥで必ずＩＣＴを活用しているわけではありません。紙とデジタルそれぞれの良さがあるからです。

以前、生徒が「学力・学力低下」の記事を探して意見をまとめる取り組みをしました。紙の新聞とデジタルの新聞を経験して、両者を比較したのです。彼らの実感として、紙の場合は読んだ情報量は少ないが理解度は深いと感じていた。一方、デジタルは検索すると記事が多く出てくるが斜め読みしかできない。でも、得られる情報量が多い良さも感じていました。

授業でしっかり読ませて理解させたい時は紙、多角的な見方を知ってほしい時はデジタルと、区別しています。ハイブリッドで授業をデザインすると良いと思います。

ＩＣＴ活用で生徒に付いたと思うのは情報を集めて取捨選択し、考えを組み立てる力。他地域の生徒と交流し、記者の考えを知る中で視野が広くなり、自分の考えを相対化できるようになったとも感じます。ＩＣＴは距離や時間の壁を越え、校内だけでは得られない経験を生徒に与えてくれます。

生計にかかわる記事重視

「台風被害で野菜高騰」。このような見出しを見たことがあるでしょう。新聞は、生計にかかわる記事を重視しています。最近では、ポテトチップスの販売終了のニュースを載せました。自動車のリコール（無料の回収・修理）の記事も必ず掲載しています。

暮らしの話題に特化した生活面も用意。健康や家計、子育てなどについて詳しくお伝えしています。

狙うぞ特ダネ!?
たなかひさし

新聞とわたし

大石航雅（こうが）さん

インデックス、まずチェック

「きょうの紙面」と書かれた一面のインデックスを読むのが朝の日課です。注目すべき記事が分かり便利。気になれば朝食中や晩ご飯前の空き時間に、記事を読みます。

社会科の定期試験で、毎回時事問題が出題されます。一年生の最後のテストでは、英国の首相名（テリーザ・メイ）や、廃炉が決まった高速増殖炉名（もんじゅ）などが問われました。百点満点のうち六点分ですが、授業ではあまり取り上げられないので、普段からニュースをチェックしていないと点が取れません。

新聞は時事問題対策だけでなく、未来を考え、知るのにも役立ちます。最近は人口減少や名古屋城の木造化の話題が気になりました。

（名古屋市植田中二年）

新聞ひラッコが、新聞の読み方やお薦めの記事をツイッター(@chunichi_nie)でつぶやきます!